

《教育目標》(目指す児童像)

○心もからだも強い子

○すすんで勉強する子

○友だちと協力する子

《校訓》

夢がもてる「わが母校」

《教育ビジョン》

「自立」・「共生」、そして「創造」へ

《目指す学校像》

活気と温もりにあふれ、一人ひとりのよさや可能性を生かす「チーム芝浦小学校」

《目指す教師像》

○「教育のプロ」としての使命感をもち、自らを磨き、常に学び続ける教師

○組織の一員としての責任感と協調性を有し、学校運営に参画する教師

○自らの姿で範を示し、子供の心に寄り添った指導を行う教師

○保護者、町会・地域の願いを受け止め、誠意をもって対応する教師

○コンプライアンス(法令遵守)意識が高い教師

◆◆「徳」「知」「体」を育み、一人ひとりの個性を伸ばす教育の推進◆◆				長期的経営目標	○中期的経営目標(◎重点目標)	・具体的な取組
◆豊かな心◆ 自分を大切にするとともに、他者のよさを認め尊重し合う心情の育成を図る。		◆確かな学力◆ 主体的に学習に取り組む姿勢、学んだ知識及び技能を活用し、未知のことにも対応できる思考力、判断力、表現力等の育成を図る。		◆健やかな体◆ 基本的な生活習慣の確立と健康な体づくりへの意識向上を図る。		◆インクルーシブ教育◆ 一人ひとりが能力や特性を伸ばしながら、成長・発達していける支援体制の構築を図る。
◎人権教育の推進 ・教育活動全体を通した偏見や差別を許さない人権教育 ・「いじめ」のない学校づくり ～いじめ、差別、仲間はずれをしない、させない、見過ごさない～ ▷「ふれあい(いじめ防止強化)月間」(年3回)の取組を通しいじめの未然防止 ▷「生活アンケート」「Web-QU」(よりよい学校生活と友達づくりのアンケート)を活用しいじめの早期発見 ▷「校内委員会」(随時開催)を中心とした組織的対応によるいじめの早期解決 ▷「学校いじめ防止対策委員会」(年2回)を通しいじめ防止対策の取組 ▷「お肉の情報館」と連携した偏見や差別に関する学習		◎「主体的・対話的な深い学び」に視点を置いた授業改善 【目指す授業】 ・学習のねらいを明確にし、学習に見通しをもたせた授業 ・児童の知的好奇心、追求意欲を高める授業 ・児童の思考・判断を促す働きかけ、発問のある授業 ・児童同士が考えを認め合ったり、深め合ったりする授業 ・児童の考えを生かし、創造的な活動を引き出す授業 ・児童から出された考えをもとにまとめを行う授業 ・児童自身が自己の学習活動を振り返り、次につなげる学習		◎運動への関心・意欲の向上、及び基礎体力の向上 ・児童の実態に応じた基礎体力を高める取組(「体力・運動能力調査」の結果の活用) ・ゲストティーチャー(アスリート等)を招いた学習 ・体力づくりのための日常的な取組(縄跳び、ボルダリング等)		◎特別支援教育の推進 ・特別支援教室(ステップアップルーム)を中心とした特別な支援が必要な児童に対する個に応じた自立支援の充実 ▷個別的教育支援計画、個別指導計画の作成 ・特別支援コーディネーターを中心とした校内研修会(年1回)の実施 ・定期的な保護者向け通信の発行
○規範意識の醸成 ・良好な人間関係を築く言葉の指導 ▷気持ちのよい「返事」「挨拶」、「感謝」を表す言葉、相手を「褒める・励ます」言葉、場や人に応じた「言葉遣い」等 ・『芝浦小学校の生活の決まり』や『芝浦の子』(自己評価表)を活用した家庭と連携した指導 ・「考え、議論する」道徳の授業の実践、「道徳授業地区公開講座」の実施		◎学校図書館の積極的な活用 ・学校図書館の機能の充実(読書センター・学習センター・情報センター) ・学校図書館活用の年間計画の作成 ・学校司書、学校図書館支援員と連携を図った授業 ・「芝浦小読書の日」(毎月第4土曜日)設定による読書の習慣化		◎食に対する知識の定着と食に対する関心の向上 ・「食に関する指導の年間計画」に基づいた食育の推進 ・日本の伝統的な食文化(行事食、郷土料理等)を継承した給食、地域と密着したコラボ給食の実施 ・食の喜びや楽しさが実感できる体験学習(1・2年)、地産地消についての学習(3・4年)、家庭科専科と栄養士と連携を図った授業(5・6年) ・「給食だより」の発行 ・教員対象の食物アレルギー事故防止研修の実施		○特別支援教育体制の強化 ・「校内委員会」を中心とした組織的・計画的な協議・早期支援 ・学級担任と特別支援教室巡回指導員と学習支援員とが連携した指導、支援 ・家庭、医療機関、児童発達支援センター等との連携
◎特別活動の充実 ・上級生を敬う心、下級生をいたわる心を育てるハッピー一班活動(異学年交流)の充実 ・自己有用感を高める学級活動の工夫 ・児童の自発的・自治的活動の場である児童会活動の活性化		◎理数教育の推進 ・算数科の習熟度別指導(3～6年) ・「東京ベーシック・ドリル」等を活用した基本的・基本的な学習内容の定着 ・「港区立みなと科学館」を活用した学習		○一日の生活リズムを確立と学習意欲の向上 ・朝の時間の活動の充実 ▷朝読書、朝学習、読み聞かせ等		
○芸術鑑賞の機会の充実 ・「歌花隊」の活動、・児童が主体となり計画する「ミニコンサート」の実施						
○全教員が共通理解を図り取り組む生活指導 ・学年指導体制の強化 ・生活指導夕会(全教員参加・週1回)での生活指導上の課題等についての情報共有						

◆◆Society5.0 時代 を生き抜く力の育成◆◆

○キャリア教育の推進

・「芝浦小版キャリアパスポート」を活用した自己評価の実施

・租税教室(税関)、法教育(弁護士)、金融教育(証券会社)等の実施

・オリンピック・パラリンピック教育「学校 2020 レガシー」を継承し、トップアスリートから生き方を学ぶ

○ICT を活用した学びの充実

・算数や総合的な学習の時間を中心にしたプログラミング的思考の醸成

・ICT 機器(デジタル教科書、タブレット端末、電子黒板等)を活用した授業の推進

○幼・小中一貫教育の推進

・保幼小連携、就学前教育の充実(芝浦幼稚園・港南幼稚園、近隣保育園との交流)

・「スタートカリキュラム」(園と小学校の接続)、「MINATO カリキュラム」(小・中学校の接続)の活用

・「港南アカデミー」(園・小学校・中学校の研究組織)における合同授業研究や交流活動

◎郷土への愛着の醸成と地域の課題に向き合う意識を育てる教育の推進

・企業や NPO 等と連携した運河学習(3・4年)や地域の環境に対する理解を深める学習

・「港区マイスクール PR コンペティション」(学校や地域の魅力向上のための提言)へ向けた取組

○児童・保護者に寄り添う相談体制の充実

・スクールカウンセラー、養護教諭と連携したカウンセリング

・スクールカウンセラーによる全員面接(4・5年)

・スクールソーシャルワーカーの積極的な活用(不登校児童の登校状況改善等)

◆◆地域社会と連携した教育の推進◆◆

◎地域とともにある学校づくり

・「地域学校協働本部事業」の機能の活用
▷地域コーディネーター(学校と地域をつなぐ連絡・調整者)による出前授業等に関する情報提供、
▷学習支援・行事支援・安全支援・環境整備等のボランティア募集

・地域の学習素材や地域人材を活用した学習

○国際理解教育の充実

・英語専科と外国人講師による質の高い授業

・「世界友だちプロジェクト」の指定国の大使館と連携した教育

・自国の伝統文化について学ぶ学習(芝浦太鼓・なぎなた教室等)

○学校から区民、地域への積極的な情報発信

・学校だより、学校ホームページ、Twitter 等を活用した教育活動の発信

○外部評価を生かした学校経営の充実と教職員の意識向上

・「学校評議員会」の開催

・「学校評価アンケート」の実施・考察

◆◆学びを支える教育環境の整備◆◆

○教員の資質・指導力の向上

・「めざす教師像」の実現 ・研修会、研究発表会への積極的な参加と校内への還元

・校内 OJT 体制の充実 ・定期的な服務研修(服務事故0) ・心身の健康管理

◎SDGsにつながる教育活動の推進

・SDGs の観点を取り入れた授業

・ビオトープなどの学校の自然環境を活用した環境教育

○安心・安全な施設・設備、教育環境の整備

・保護者、地域の方々、警察と連携した通学路点検(年2回)

・「地域安全マップ」の定期的な点検

・教員による校内の安全点検(月1回)

○防災・防犯、安全教育の推進

・避難訓練・安全指導(全学年月1回)の実施

・セーフティ教室、交通安全教室(1・3年)、薬物乱用防止教室(6年)の開催

・地域主催の防災教室への参加

・情報モラル教育の実施(SNS マナー教室の実施、「しばうら小 SNS ルール」の徹底)

・非常事態発生時の関係諸機関との連携及び関係諸機関への的確な情報発信

○教員が教育活動・教材準備に専念できる時間の確保

・働き方改革の推進(ICT の活用、家庭・地域との役割分担、スクール・サポート・スタッフの活用)